ガーナでそろばんプロジェクト 106 号（2023 年 3 月 31 日）

★★その場にいる子ども全員が理解し楽しめるのが私の数楽・スウガク★★

前号では6年生での授業の様子をお伝えしましたが、今回は3年生の授業での様子をお届けします。指導する学年は違えど、指導するうえで心がけているのは「数を楽しく学んでもらえる授業」楽しく学び、数を覚えることでそろばんの計算力に繋がってくると思うのです。まさに『数学』です。3月のある日の事、3年生で算数の授業を行ないました。私の中で、3年生からもそろばんの授業が出来ないか?そんな思惑があっての授業でした。3年生の算数の授業を覗いた時、黒板に書かれた4桁の数字を担任が「千の位は4だから千が4つ、百の位は7だから百が7つ・・・。」というように英語で数字の概念の説明をしています。この授業を見てから数日後に、背中に「百の位は●、十の位は▲」と子どもを出させ背中に指で書き、見ている子どもにはその数を言わせず、指文字で書いた数字を答えさせるものを行ない「次、ぼくやりたい。」「次は私よ。私を指名して。」とたいへん盛り上がるのある授業で、私自身「チョーク1本あれば出来る楽しい算数の授業。チョークが無ければ、指文字や身体を動かしリズムを取りながら数字をいうゲームを私は出来る。」と自負していました。盛り上がれば盛り上がるほど、それに入って来ない子どもにも十分に目を配ることは忘れないことも自負していました。〝そろばんの授業を3年生でも出来ないか?〟そんな思いで行なった内容は数の順番です。黒板に数字を書き、空いているマスも書きます。空いたマスに数字を入れるものです。1ずつ増える優しい問題から3ずつ増える問題等を黒板に書いていきます。「ぼくに答えさせてよ。」「私よ。私を指名してよ。」指名されないと机に顔を伏せて泣いたふりをするツワモノもいます。それだけ私の算数を子どもが楽しんでくれている証拠なのです。ところが・・・このようなアクションはせずにノートにひたすら棒を書き続ける子どもがいるのです。たし算引き算の問題ではないのになぜ棒をひたすら黒板を見ながら書いているのか?棒を書かせるのを止めさせてしまいました。また使いい廻しキャップ部分が汚れたペットボトルを加え授業であることさえ理解していない子どもがいるのです。「トシコ、〇〇はエベェ（現地語）しか話さないからトシコの言っていることはわからないよ。」と他の子どもが教えてくれたこの事実は「私の算数は数を楽しく学べる授業」と自負していた私にとってとても痛い言葉でした。〝担任も算数の授業でやっているのに〟〝幼稚園児も数字は英語で先生が教えているよ〟これは言い訳にしかすぎません。現に計算でもない空いたマスに数字を入れていく問題を棒を書いている子どもがいるのですから。先日の6年生、そして今回の3年生とその場にいる子どもが理解し楽しめないと数楽とは言えません。4年生5年生もそろばんにつながる算数の授業を実践したいと思います。数楽は十がわかる喜びに繋がっているのだと思います。

協賛　トモエそろばん様

（報告　TOSHIKO）